

# 令和6年度 生徒会だより

5月号



皆さんもご存じの通り、この三瓶分校は1920年山下亀三郎氏によって設立された第二山下実科高等女学校にはじまります。そして、創立104周年となる今年度で、長い歴史と伝統に幕を閉じることになります。

閉校まで一年を切って私たちの学年だけとなり、寂しさも感じますが、僕たち14名で最後の三瓶分校を良い形で締めくくることができるよう、持ち前の明るさと仲の良さを最大限に発揮して、最後の三瓶分校を盛り上げていきます。

そのために今までの行事も、今まで通り行うのではなく、生徒会を中心に生徒、先生方の良い意見やアイデアを聞き、より楽しく素晴らしいものにできたらと思っています。

少人数だからこそ、先生方・生徒の皆さんで意見・アイデアを出し合って、この三瓶分校で有終の美を飾ることができるよう力を合わせて頑張っていきましょう。

(生徒会長 宇都宮 吏聖)



生徒会役員

## 校母祭

4月18日は三瓶分校の開校記念日です。この日を「母の日」と命名し、「校母祭」として毎年、学校全体で山下亀三郎氏の母・敬子様を偲んでいます。亀三郎氏は、自分の成功を生み育ててもらった「お母様の教育」にあるとして、片時も忘れることなくそのご恩に報いようと考えていたようです。お母様のご恩に報いるために「人をつくるには、まず母をつくれ」という考えを、建学の精神に掲げました。お母さまのような立派な女性を世に送り出すために、大正6年、故郷の吉田町に山下実科高等女学校を、ついでお母様の郷里であるこの三瓶町に第二山下実科高等女学校を設立しました。

この日、分校長先生から本校設立の由来や亀三郎氏の紹介が行われました。また、生徒会長が「三瓶分校最後の年にあたって」というテーマで発表を行いました。

長く続いた三瓶分校が終わってしまうことは、時の流れを感じるとともに大変残念なことです。きっと校舎には、たくさんの歴史と思いが詰まっていることと思います。この学校を大切に、残り1年、先輩方が残してくれた伝統を守りながら、最後の三瓶分校生として自分たちらしく締めくくられたらと思います。



# 南予総体

4月27・28日に南予総体が行われました。本校からは、ソフトテニス部と卓球部が宇和高校との合同チームとして出場しました。



選手の皆さんは、自分たちの力を十分発揮してくれました。大変な練習を継続して、しっかりと頑張ってきた結果だと思います。クラスメイトの活躍を大変誇らしく感じます。

県総体は5月31日（金）に総合開会式が行われ、6月1日から各競技の試合が開始されます。残り1か月、最後の調整をしっかりと、悔いのない試合をしてきてください。



## 試合結果



**男子ソフトテニス部** 団体 県大会出場

**男子卓球部**

団体 ベスト4

ダブルス 吉見・竹中組 ベスト8

シングルス 吉見 ベスト8

**女子卓球部**

団体 ベスト4

ダブルス 紀伊野・須田組 県大会出場

# サバイバルウォーク

5月9日木曜日に三瓶分校伝統のサバイバルウォークがありました。朝の8時半に学校をスタートし、須崎観音、潮彩館、姫塚の順で合計23.4kmをクラスのみんなで楽しく歩きました。今年度が最後ということで、希望する保護者や学校関係者の方にも参加していただきました。

須崎観音がある須崎園地では、鐘を打ち鳴らしたり、集合写真を撮ったりしました。海の景色がとても美しかったです。潮彩館でのお昼休憩では、先生や保護者の方が協力して、三瓶分校名物の豚の腹巻きおにぎりや豚汁などを用意してくれていました。どれも大変美味しく、そのおかげで午後からのウォーキングも頑張れました。

午後は潮彩館から姫塚に向かいました。前半の疲れもあり、坂道を進むのがとてもしんどかったのですが、皆で声を掛け合って何とか目的地に着きました。ハンセン病学習で習った「姫塚」の場所を知ることができよかったです。学校のベンチに座った時は、どっと疲れが出ました。

23kmを歩くのは思っていたよりしんどかったのですが、最後に皆で楽しく歩いてよかったです。大変だったからこそ、思い出深いものになり、サバイバルウォークは最高のイベントだと思います。

